

# = 委員会だより =

## 1.薬事委員会

今回平成11年3月に薬事委員会真鍋前委員長が退職されましたので、代わりに報告させていただきます。当委員会は当院で使用する薬剤の新規採用および使用中の薬剤の継続使用の採否を決めております。現在、採用薬剤品目数を減らすべく、真鍋先生を中心に委員が努力してまいりました。その結果、各科の責任者と薬剤部にアンケート調査などを行い、全科で現在使用希望がない薬剤で、また実際に処方もされていないものに関して近々削除の方向で検討中であります。平成10年度は計2回会議が開かれ、計17品目の新規採用薬品と計36品目の疾患患者緊急特定薬品の承認を行いました。原則的には新規採用薬品の替わりに同種の既採用薬品を削除することになっておりますが、実際の臨床の間ではそうもいかない

点があり、当委員会の悩みの種となっております。

以上薬事委員会の昨年度の活動を記載いたしましたが、今後も適正な薬剤採用と削減を目指して努力していきたいと考えております。

顧問 関谷 千尋

委員長 真鍋 邦彦

委員 檜山 繁美、高岡 和夫、小野 百合  
安田 秀美、松岡 伸一、宇加江 進  
塩谷 勉、安田 卓二、尾形 仁子  
菊川 美一、金澤 勲、辻野奈緒子  
福島 紘司、新庄 一、荒川美和子  
亀田すみ子、宮尾 勝介、野田 勝之

(文責 宇加江 進)

## 2.安全・衛生管理委員会

安全・衛生委員会は院内感染予防をはじめ感染性および非感染性医療廃棄物処理問題、冷却水の汚染問題などを含めた院内の安全と衛生に関わるすべての問題を協議し、協議事項を院長に諮問する委員会ですが、主な活動を以下に記載いたします。

### 【現在おこなっている活動】

#### (1)院内感染サーベイランス

主治医から報告された主たる病原菌による感染症の週報告、月報告をもとに定期的に各病棟別に集計をおこなっております。この際同時期に同部所でMRSA感染症が発生した場合は小委員会、安全・衛生委員会で協議の上MRSAのDNA分析などで院内交差感染の有無を決定し、今後の院内交差感染対策に役立てております。

#### (2)安全・衛生委員会

毎月第二水曜日に安全・衛生委員会を開催しております。毎月のサーベイランス報告をもとに個々の

感染症に関して感染症発症の原因や対策について検討しております。また平成8年9月より冷却水のレジオネラ菌検査管理をおこない、さらに平成9年10月より院内の感染性廃棄物および非感染性廃棄物の管理をおこなっております。当委員会は院内各部所の医師、看護婦長または主任、検査技師、薬剤師、放射線技師のほか、事務局からも参加していただき協議しております。検討結果は協議書として院長に報告され、予算が必要な活動については稟議書として提出されます。また平成10年1月から感染対策小委員会(宇加江小児科部長、晃昇 ICT 婦長、保谷検査技師)を組織し毎週送付されてくる細菌検査結果をもとにMRSA感染の追跡調査をおこなっております。

#### (3)厨房の定期的細菌検査

当院では平成9年1月より毎月厨房内のMRSAや腸内細菌の細菌検査をおこなっております。院内

の空調が整備され食中毒は通念発症型に変わってきており、この細菌検査結果をもとに食中毒予防対策をたてております。

#### (4)新規採用職員のツ反応二回法の実施

再興感染症として注目されている結核菌の院内感染を防ぐための一環として新規採用職員の結核菌に対する免疫状態を確認することにいたしました。二回とも陰性の場合はBCGを投与していただくことを当委員会では勧告しております。

以上安全・衛生委員会の活動を記載しましたが、今後ますます重要な役割を担っていると銘記し努力していく方針です。

顧問	秦 温信
委員長	大西 勝憲
副委員長	宇加江 進
委員	高岡 和夫、小野 百合、松岡 伸一 安田 泉、吉川 裕幸、塩谷 勉 中川 英久、安田 卓二、菊川 美一 辻野奈緒子、新庄 一、保谷 俊行 増村 修、川合 満、北山由紀子 尾田 和子、小泉由貴美、本山 博恵 亀田すみ子、藤井 厚子、喜多 悦子 佐々木まり子、晃昇とも子、深山 弘康 中込 玲子、加藤 猛

(文責 大西 勝憲)

## 3.医療器材委員会

医療器材委員会は医療器材の有効利用と、適正な機器購入を行われているか、審議するため設置されている。

平成10年度の医療器材委員会では大きな事項として、ヘリカムCTスキャンの選定と平成11年度の社会保険病院整備計画の医療機器の選定作業を行った。

ヘリカムCTスキャンの選定では、10月に業者メーカー側から東芝・GE横河・シーメンス・島津等の機械説明書、実写のフィルムなどによる説明会を講義室で開催する、出席者よりフィルムの撮影状態、操作性等の討論を行ったのち、数回の検討会を重ねGE横河の製品を選定する。

病院整備計画は11月より各部署から医療機械整備計画書の提出をうけ、院長のヒアリングを通し、平成11年度の購入予算枠56,000,000円内の機器選定を

行い機器関連79品、システム関連3件、麻酔モニターシステム、分娩監視装置等31件の整備品を選定する。随時に発生するカテーテル、皮膚保護剤、ガーゼ等の新規医療材料購入品に対しても小委員会を設け、類似品の有無、価格、新規変更による利点、欠点などを検討、さらに試用期間を設け期間経過後再検討を行い、購入を決めている。

委員長	秦 温信
副委員長	檜山 繁美
委員	三橋 公美、竹林 武宏、松岡 伸一 吉川 裕幸、中川 英久、福島 紘司 真下 泰、北山由紀子、小泉由貴美 晃昇とも子、杉山 國夫、宮尾 勝介 加藤 猛、遠藤 裕明、山谷 修司

(文責 加藤 猛)

## 4.診療委員会

当委員会は、外来や病棟をはじめとし、院内における診療に関連する部署の諸問題を調査、検討し、その改善・発展のための方策案をまとめ院長へ答申するために設置されたきわめて重要な委員会である。

当院の大きな課題の一つであった「1患者・1カルテ制」への移行について、当委員会でカルテ関係

諸様式や切り替えスケジュールなどを検討し、平成10年9月14日から実施することができた。移行直後は、「カルテ」の検索に手間どり、外来患者の診療待ち時間が長くなるなど、混乱を招いたことは、反省点として挙げられる。しかし、「1患者・1カルテ制」への移行により、全人医療を推進していく基

盤ができ、患者に対するより質の高い医療を提供できるものと期待される。

また、当委員会の下部組織として、「診療録小委員会」、「医療事務検討小委員会」、「外来および病棟管理部長協議会」が設置されているが、これら組織のさらなる活性化を図ることが、当委員会の充実、発展につながるものと考ええる。

なお、平成10年度の委員は下記のとおりである。

委員長 秦 温信

副委員長 関谷 千尋、荒川美和子、杉山 國夫  
委員 真鍋 邦彦、浜辺 晃、檜山 繁美  
三橋 公美、青木 伸、大西 勝憲  
高岡 和夫、竹林 武宏、吉川 裕幸  
安田 卓二、菊川 美一、福島 紘司  
小泉由貴美、晃昇とも子、深山 弘康  
宮尾 勝介、遠藤 裕明、野田 勝之  
社内 謙一、木村 正人、松井 寛之  
(文責 野田 勝之)

## 5.教育研修委員会

講演会・学術集会など院内における教育・研修に関連する事業を推進、企画、実行するために平成10年度に新設された委員会である。学術集会を通じて様々なテーマについて各部署との意見交換を行うこと、ならびに臨床研修病院指定に伴って「臨床研修委員会」を組織して、研修プログラムの作成、実施および評価などを行うことが主たる役割となる。

以下に「学術集会」として行われた内容を記す。

第1回 平成10年10月5日

座長：荒川美和子副看護部長

講師と演題：宗 鴻儒

(承德医学院看護学科副学科長)

「中国の看護教育の概要」

謝 延香

(承德医学院附属病院副看護部長)

「中国看護の現状」

第2回 平成10年11月10日

座長：荒川美和子看護部長

講師と演題：栗林文雄

(北海道医療大学看護福祉学部教授)

「音楽療法」

第3回 平成10年12月10日

座長：竹林武宏整形外科部長

講師と演題：塩谷 勉

「新しい気道維持法ラリンジマスクー  
当院での使用ー」

第4回 平成11年2月25日

座長：青木 伸内科部長、竹林武宏整形外科部長

講師と演題：小野百合(内科部長)

「糖尿病と神経障害」

竹林武宏(整形外科部長)

「腰部変性疾患による神経症状に対する  
糖尿病の影響」

渡辺 稔(検査部主任)

「糖尿病性神経障害の検査」

長沢恵美子(4東Ns主任)

「糖尿病性神経障害患者の看護」

なお、平成10年度委員会は以下の委員で構成された。

委員長 秦 温信

副委員長 関谷 千尋

委員 竹林 武宏、中村 条子、荒川美和子  
杉山 國夫、深山 弘康

(文責 秦 温信)

## 6.医誌編集委員会

平成4年、年報の編集を目的として景浦 暁副院長を本委員会の委員長として発足して以来、その後の関谷副委員長はじめ歴代の各委員、また投稿していただく職員のご努力により、“年報”のみから“年報プラス医学雑誌”としての“札幌社会保険総合病院医誌”として少しずつですが中身の濃いものになりつつあります。

今回は、学術論文もこれまでで最高の21編となり、英文抄録も加わり、医学雑誌としての側面が強められたと思います。また業績、統計をはじめとして1年の軌跡も、皆様の努力により（いろいろ大変なこともあります）着実に豊かなものになっているのではないかと思います。こうして1年の努力を記録にするのは次への進歩に向けて大切なことと思います（人はどんどん忘却してゆくものです）。記録を残すのは面倒くさいし、大変ですが、皆様のご協力をお願いします。昨年は編集委員会の力不足もあり

発刊が大変遅れてしまい申し訳ありませんでした。今年度はよりリアルタイムに発刊したいと思います。最後に、全社連学会の発表報告は全て論文にすることになっていますので、今年の発表の方は宜しくお願いします（他誌に投降の場合は結構です。また全社連学会の発表でなくても論文は広く募集しています）。

顧問 関谷 千尋  
委員長 安田 秀美  
医 局 真鍋 邦彦、宇加江 進、吉川 裕幸  
尾形 仁子、金澤 勲  
看護部 荒川美和子、小泉由貴美、佐々木まり子  
協助部門 井藤 達也、佐藤 正幸、増村 修  
川合 満、田附 満  
事務局 杉山 國夫、深山 弘康  
(文責 安田 秀美)

## 7.禁煙対策推進委員会

当院では2000年1月1日より院内全面禁煙に向け、「禁煙対策推進委員会」を中心として準備中である。

院内禁煙の自粛は、平成6年7月1日売店のたばこ販売廃止および自動販売機の撤去から始めた。

当委員会は平成9年10月に設置され、禁煙推進スケジュールを設定するとともに、職員および患者を対象に禁煙に対するアンケート調査を実施して検討してきた。

アンケート調査の結果から、患者の喫煙者の約4割が禁煙外来受診を希望していたことから、平成10年7月マニュアルを作成し、各科担当医による禁煙外来を実施した。

10月には禁煙パンフレット（これでたばこがやめられる）の配置やポスターによる啓蒙なども行った。

平成10年度は下記の禁煙推進スケジュールのとおり進めてきたが、その後のスケジュールに従って2000年元日に向けて職員および患者の方々のご理解

とご協力をいただき、推進していきたいと思っている。

～～～ 禁煙推進スケジュール ～～～

平成10年6月	禁煙推進特別講演会
平成10年7月	禁煙外来実施
平成10年10月	院内一部禁煙実施
平成10年11月	禁煙場所の点検
平成11年1月	院内一部禁煙実施
平成11年4月	禁煙推進イベント企画
平成11年7月	院内一部禁煙実施
※病棟喫煙室以外全て禁煙	
放送による啓蒙	

委員長：秦 温信 副委員長：安田秀美  
委員：浜辺 晃、青木 伸、竹林武宏、高岡和夫、  
新庄 一、藪野 孝、永谷かね子、田附  
満、前島澄子、喜多悦子、佐々木まり子、  
種綿ひろみ、深山弘康、宮尾勝介、中込玲  
子、山谷修司 (文責 中込 玲子)

## 8.医療費適正化委員会

この委員会の目的は、病院の運営資金の源であるレセプト（診療報酬明細書）が適正に請求されているか、請求もれがないか、請求もれをいかに防止できるかなどを重点的に調査研究し院長へ意見を答申する委員会で、病院経営に大きな影響を与える。

当院の平成6年から平成10年迄の査定率の推移については、右図に示したとおり、平成8年迄は順調に減少してきたが、平成9年から上昇傾向となってきた。

この要因として、平成9年9月に危機的な財政状況を立て直すため医療保険制度が改正され、それ以来、レセプトの審査に対する支払基金・国保連合会の審査が一段と厳しくなり、保険者からの再審査請求が増加したことなども影響しているものと思われる。

また、当院では平成10年9月から「一患者・一カルテ制」への移行が実施され、その定着を図るまで、この委員会を中断せざるを得なくなったことも原因の一つに挙げられる。

当院の診療行為別の査定割合は、右図のとおり、入院、外来ともに検査の占める割合が極めて大きいのが特徴である。

今後の査定減対策としては、検査の点検を強化していくことが重要であると考える。

平成10年度の委員は、下記のとおりである。

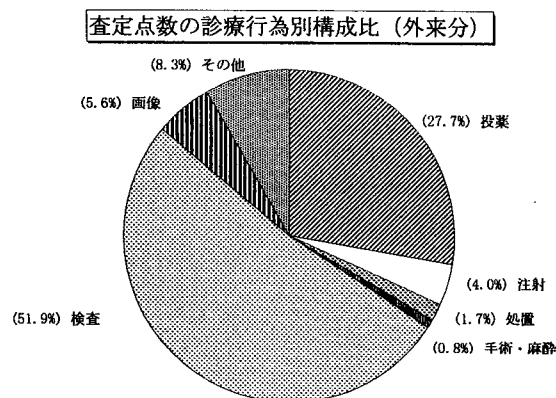
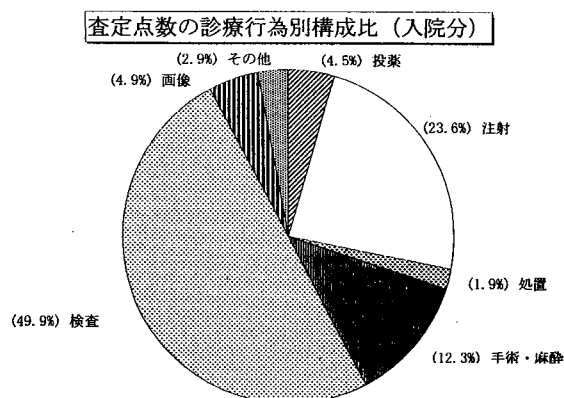
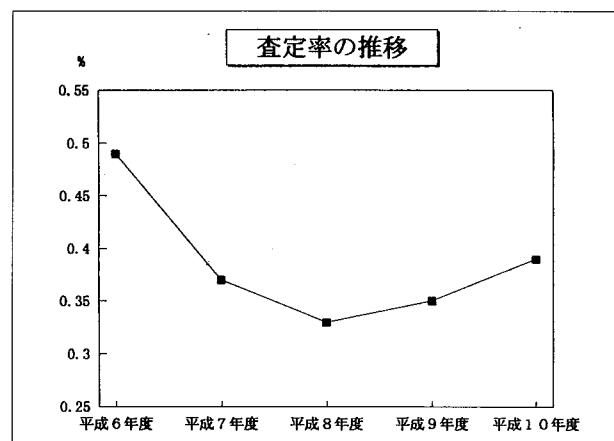
委員長 関谷 千尋

副委員長 浜辺 晃

委員 真鍋 邦彦、檜山 繁美、三橋 公美  
大西 勝憲、高岡 和夫、小野 百合  
竹林 武宏、安田 秀美、安田 泉  
吉川 裕幸、宇加江 進、中川 英久  
安田 卓二、菊川 美一、金沢 勲  
辻野奈緒子、新庄 一、大西 淳一  
相川 修二、荒川美和子、北山由紀子

喜多 悦子、杉山 國夫、宮尾 勝介  
野田 勝之、斎藤 修一、木村 正人  
東海林美子、松井 寛之、長尾 真人  
三上 優子、加藤 直

（文責 野田 勝之）



## 9. 治験委員会

平成10年度の治験委員会は1～2ヶ月に一度開催されました。1年間の治験件数は第2相が5件、第3相が10件、市販後調査が11件の実績でした。平成11年度4月から新GCPに対応すべく、当院の基準作成が急がれていましたが、数回の委員会、小委員会を開き2相、3相の基準作成および市販後調査の基準作成共に終了し、平成11年4月からは新GCPに沿った形で治験が始まっています。外部委員として北大医療短大の和田教授にも参加していただきよ

り公明正大な委員会へと変貌しつつあります。

顧問 秦 温信

委員長 青木 伸

副委員長 新庄 一

委員 大西 勝憲、高岡 和夫、小野 百合  
浜辺 晃、服部 淳夫、松岡 伸一  
和田 龍彦、荒川美和子、本山 博恵  
宮尾 勝介、野田 勝之

(文責 青木 伸)

## 10. 北辰だより編集委員会

北辰だより編集委員会は毎月一回開かれ記事の決定はもとより、紙面の充実・改善に向けて常に検討努力しています。この北辰だよりは昭和60年4月1日に創刊されて以来、長い歴史をもつ院内機関紙であります。全刊は縮刷版として保存されており、当院の歴史を物語る記録性のある貴重な刊行物のひとつであります。紙面の冒頭には、以前は注目されている疾患の解説などに関する記事がのせられていましたが、最近は医療情勢についての記事や当院の今後の方針などについての記事が主に掲載されています。その他、三志会をはじめ様々な院内行事の体験記や同好会紹介、行事予定、人事異動等の記事がその時期に応じて紙面をうめています。この北辰だよりによって長い時間の流れを一ヶ月という短期間で区切り、様々な院内状況を記事として記録保存していくことは極めて重要であり価値のあることと思われます。

北辰だよりを作成する我々編集委員の願いの一つに、この機関紙を通じて職員の皆様に当院のおおま

かな流れをつかんでいただき、当院がこれから歩む道について理解していただく一助になればとの思いがあります。職員一人一人の理解なしには、積極的に活発な明るい病院の雰囲気は生まれないと信ずるからです。

毎月欠かすことなく発刊されている本紙の長い伝統を支えていただいているのは職員の皆様から寄せられた一つ一つの記事であります。ここに深く感謝するとともに、今後とも編集委員一同、より一層紙面の向上に向けて頑張る所存であります。

顧問 関谷 千尋

委員長 竹林 武宏

副委員長 野田 勝之

委員 松岡 伸一、安田 泉、尾形 仁子  
志賀 隆博、土田 収二、加藤 信博  
川合 満、中山梨香子、佐々木まり子  
遠藤 裕明、加藤 猛、葛西しほり

(文責 竹林 武宏)

## 11.将来計画委員会

札幌市の東南部である厚別区（通称：新札幌）の現在地に移転して、10年を過ぎようとしている。当時は高層ビルも疎らで閑静さをも漂わす環境の中に、周辺住民の大きな期待で迎えられ移転した。移転当時、5階建 276床 19,959㎡の院内は、一日500人の外来患者数を見込んでも余裕ある診療体制であった。しかし、今や周辺地域の発展：人口増とともに、JR・地下鉄コンコースの通院利便から、外来患者は倍数の1,000人を超え、診療スタッフの増加と併せて院内スペースに余裕を感じない。患者数に比例して増加する診療録や必要とする医療機器の増加等々、スタッフは勿論、患者にとってもロスの多い動線を作り出している実態である。

平成11年4月から臨床研修指定施設の認定を受け卒後医師を迎えることもあり、院内スペースの全体的な見直しを図り、より効率的な将来計画の策定が急務である。

### 計画の骨子

- 1 2階事務室を一階事務室に統合
- 2 事務当直室を効率的な位置に移設する
- 3 薬剤部スペースの一部転用（院外処方実施済）

- 4 “ 患者待機スペースの一部転用（ “ ）
- 5 カルテ管理と保管場所の整備
- 6 病歴庫の整備
- 7 喫茶室及び売店の移設
- 8 1階検査室を2階検査室に統合
- 9 管理者及び部長室の整備
- 10 医局の整備
- 11 救急外来の移設（放射線部との連携）
- 12 受付・診察外来ホールの整備
- 13 職員福利厚生設備の整備

これら計画の妥当性や実現の時期なども含め継続的に審議を重ねる予定である。

委員長 秦 温信

副委員長 関谷 千尋

委員 真鍋 邦彦、桧山 繁美、三橋 公美  
青木 伸、大西 勝憲、竹林 武宏  
服部 淳夫、吉川 裕幸、福島 紘司  
荒川美和子、晃昇とも子、小泉由貴美  
杉山 國夫、深山 弘康、宮尾 勝介  
野田 勝之

（文責 深山 弘康）

## 12.経営委員会

病院の経営状況を正確に把握することによって健全な運営を維持し向上させることを目的に当委員会がスタートした。

平成9年9月の健康保険法等の改正に端を発し、病院経営は非常に厳しい現況に追い込まれている。平成10年度の上半期における月別収支は悪化傾向が根強く、厳しさが一段と拡大してきていることから、一刻も早く原因の究明を行い、改善策を見出さねばならない状況下であった。

委員会の構成は、秦副院長を委員長に、副委員長に関谷副院長と杉山事務長、そして各部長・所属長が委員の委嘱を受けて、真剣な検討に入った。

経営改善の主眼点のひとつである増収対策として

現状の収支の推移から第一に診療報酬の5%アップを目標とした。具体的には患者数の増加対策を始めとして多数の取り組みポイントがありますが、当院の場合特に当面の課題として、指導料と管理料の算定洩れや請求洩れの防止及び病名洩れによる請求点数の査定防止の二点を重要な項目として取り上げた。

指導料と管理料の算定洩れ防止「マニュアル」を作成すると共に、病名洩れの相互チェックを実行するなど、診療部門はじめ他の部門が一体となって取り組むことにした。

一方、費用削減策として当年度の医療機器購入計画を一時凍結し、見直しを図ることにした。見直しによって診療をするうえで必要最小限の機器品目の

絞り込みをし、又、薬剤や医療材料の適正な在庫管理を図ることにした。

今後も経営実態の分析を継続し、さらには部門別原価計算を算出・把握する中で、一層の向上を図る必要がある。

委員長 秦 温信

副委員長 関谷 千尋、杉山 國夫、荒川美和子

委員 高岡 和夫、菊川 美一、青木 伸

浜辺 晃、竹林 武宏、真鍋 邦彦

檜山 繁美、三橋 公美、安田 卓二

晃昇とも子、尾田 和子、小泉由貴美

本山 博恵、亀田すみ子、藤井 厚子

喜多 悦子、伊藤 律子、北山由紀子

佐々木まり子、福島 紘司、深山 弘康

宮尾 勝介、野田 勝之、社内 謙一

(文責 深山 弘康)